



かんじんなことは
目に見えないんだよ

タイトルの言葉はサン・テグジュペリの「星の王子さま」の中でキツネが王子さまに言った言葉だ。「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ」とも言う。王子さまは忘れないように「かんじんなことは、目に見えない」と何度も繰り返す。

名作「星の王子さま」を読んだ人は多く、この言葉を覚えている人もいるだろう。人生の旅巡礼はこの言葉に

つきると言えるかもしれない。

この言葉について書こうと思ったのは、一枚の写真を見つけたからだ。

一九九三年（H5）だったと思うが、下松市に商業施設、ザ・モール周南が完成し、そこにラジオのためのサテライトスタジオが設けられた。そこから毎日、一時間のラジオ番組を放送し、私はその責任者だった。ゲストの一人に当時、県ボランティア振興財団活動推進委員などで活躍していた視覚障害者の中村実枝さんを起用した。多分、ボランティア活動をしてきた妻の助言もあつたからだろう。

写真はサテライトスタジオで放送中の中村さんを写したものだ。彼女は「ラジオは音だけの世界、そのラジオが私にいろんなものを見せてくれる」と言い、星の王子さまのキツネの話をして、この言葉を大切にしていますと語った。

音を頼りに生きる自分の体験から出たこの言葉は彼女の澄みきつ



サテライトスタジオで放送中の中村実枝さん（左）

た美しい声とともに私の心をとらえた。私はすぐ彼女の言葉と声で「ラジオの目で」という一分間のラジオキャスパーンスポットを制作した。そしてこの作品は九六年（H8）の日本民間放送連盟主催の番組コンクールで最優秀に選ばれた。

今、巡礼の道のホームページでこの作品を聴くことができる。映像がなく音だけという

のはラジオの特性であるが、弱点でもある。私はこれをカバーするために他メディアとのメディアミックスをすることでラジオの存在価値を高める努力をした。それは退社して終わったわけではない。

考えてみれば、自分一人なんてありえないし、仮にそうであっても一人の存在は取るに足らないものだ。人と

来事とミックスされながら人間として成長している。

今書いている巡礼の道は活字メディア、これに少しでも付加価値をつけようとホームページに転載し、写真部分はカラーで見られるようにし、今回「ラジオの目で」の作品を音で聴くことができるようにした。よろしければ「ふじやかんじ」で検索して聴いてみてほしい。

中村さんとはもう二十年以上会っていない。彼女の写真を掲載することの許可を得ようと県点字図書館に連絡し、久しぶりに電話で話した。涙を流さんばかりに喜ばれたのはうれしい。

「実枝さん、いくつになられましたか？」彼女は笑って「言えません」。彼女の書いた「心つないで」の本の最後に生年月日を書いてある。その年齢を全く感じさせない透明感のある声は昔のままだ。

あさってから広島の黙想の家で十日間の黙想をする。残り少なくなった人生をどう生きるか、静かに黙想しようと思うが、何か実枝さんとの久しぶりの出会いが良い黙想の準備になったような気がする。



聖書を連想することが多い
「星の王子さま」